

331

身近な公園を楽しむための情報発信で防災情報を浸透させる

取組主体【掲載年】	法人番号	事業者の種類【業種】	実施地域
株式会社コトラボ 【平成 28 年】	5010001088987	その他防災関連事業者 【情報通信業】	東京都

1 取組の概要

公園の防災機能について理解を深める

- 株式会社コトラボは、ベンチや遊具等を製造する屋外公共家具メーカー株式会社コトブキの子会社として、平成 26 年に設立された。同社では、全国の公園情報の検索や写真投稿機能を持つスマートフォンアプリ「PARKFUL(パークフル)」を開発し、無料公開している。
- 同アプリでは、防災設備を含めた公園情報が提供され、災害時に必要な情報が得られるとともに、利用者による画像や文章の発信により、公園に備わる防災設備に対する理解が深められる仕組みとなっている。



▲投稿されているカマドベン

2 取組の特徴（特色、はじめたきっかけ、狙い、工夫した点、苦労した点）

グループ社員で情報を集める

- 同グループでは、公園に置かれているベンチや遊具を扱っているが、公園の新しいあり方を提示することで公園をフィールドとした事業の模索を行っている。その一環として、公園をより魅力ある場として情報発信するために同アプリは開発され、情報収集を行っている。
- 公園の情報は集約化されていないため、全国の公園情報の取得は困難を極める。このため、同社を含めたコトブキグループでは、非公開情報については、社員が現地調査することとしており、防災設備を始めとした約 7,800 件の公園情報を、コトブキグループ社員のうち 90 名が現地調査（平成 26 年 9 月～平成 28 年 8 月）によって収集した。
- 平成 28 年 6 月より、自治体との情報連携を開始した。自治体が管理する公園の公式情報をアプリ上で発信する取組を始めている。
- 同アプリでは、11.4 万件（うち独自調査 3 万件）に及ぶ公園情報と、7,800 件の設備情報等が登録されており、ダウンロード件数は平成 29 年 2 月末現在約 28,000 件となっている。

防災にかかわる情報を発信する

- 同アプリでは、「防災トイレ」「備蓄倉庫」といった公園にある防災設備情報を表示するほか、ユーザーが他の公園設備とともに、公園で見つけた防災設備の画像をネットワーク上にアップロードし、多くの人々と情報共有することができる仕組みが組み込まれている。
- 同グループでは平成 27 年に仙台市で開催された国連防災世界会議においてパブリックフォーラム「防災 3.0 : 安全で賑やかな自律循環型地域社会を目指して」を主催し、スマートフォン

を始めとしたモバイルツールを活用した防災のあり方等についても議論を行っている。

3 取組の平時における利活用の状況

- 公園情報については、遊具やトイレ情報等が充実しており、公園利用者に活用されている。
- また、利用者はアプリで新たな公園を見つけ、アプリ以外にもウェブサイトや SNS 等の媒体も活用しながら、公園を楽しむための情報収集及び情報発信を行うことが可能となっている。



▲利用者が投稿した公園情報

4 取組の国土強靱化の推進への効果

- 公園は、災害時には避難場所や防災拠点としての役割を持っている。日頃から公園に親しみ、公園の位置や災害時の機能を住民が理解しておくことが、有事の際の迅速な行動につながると考えられる。同社では、「地域の交流の場である公園が災害を乗り越えるコミュニティの強さを培う」と考え、まずは公園を人々にとって身近な場とすることが本サービスの役割といえる。



▲公園の防災設備情報を表示したスマホ画面



▲収集された公園情報（広域）

5 防災・減災以外の効果

- 公園設備の専門知識を持つコトブキグループ社員による調査により、遊具等の老朽化や破損状況等も確認でき、状況を公園管理者に通知することで事故防止への貢献にもつなげている。また、同調査は同社社員の教育活動にも活用されている。

6 現状の課題・今後の展開など

- 同社では、今後も調査を継続し、公園の登録数を増やすとともに、詳細情報の充実を図っていく予定である。また、アプリの利用者数の拡大に取り組んでいく意向である。
- 今後は全国自治体との連携を進め、より信頼性の高い情報発信に取り組む予定である。

7 周囲の声

- 集客・情報発信に課題を感じている公園管理者の方にとって効果的な媒体である。(公園管理者)
- 公園の使われ方、利用状況が可視化されることで、今後の整備に役立つことを期待する。(自治体職員)